

平成 29 年

8 月 30 日開催

えな「たべる」プロジェクト

第 1 回 食農交流会 報告書

「たべる」プロジェクト本格始動！

8 月 30 日（水）、恵那文化センター集会室にて初開催となる「食」×「農」交流会が開催されました。これは、地産地消を進める恵那市と、農作物の生産者、そして地元の旬の食材を使って料理を提供したい飲食店が連携して行ったもので、当日は関係者を含めて 80 人の参加がありました。現在恵那市は「たべる」を市のひとつの政策方針に据えて、プロジェクトに取り組んでいます。そのプロジェクトテーマは、“地産地消と食育に取組み、安心して美味しい「食」にあふれる「健幸のまち・えな」をつくる”というところにあります。今回の場をきっかけとして、「食」による人と人との出会いがあり、「食」について学びあえる、そんなイメージのまちをつくりたいと考えています。消費者が求めるものは何か、どのように食と農が連携すれば地産地消が進むのか、挑戦が始まります。



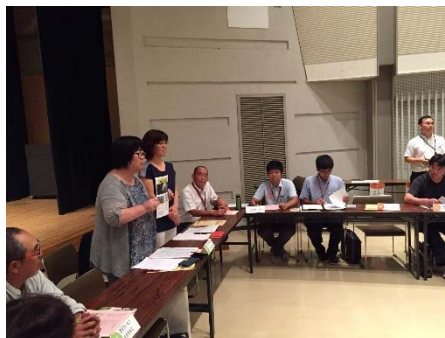
恵那市農政課長による開会宣言

「食」部門の参加者は 18 店舗 21 名。

「農」部門の参加者は 22 団体 43 名。

グループセッション

これに JA ひがしみの販売戦略室やアグリセンター、岐阜県恵那農林事務所農業普及課や恵那農業高等学校など 15 名ほどのオブザーバーやコーディネーターが集いました。まず始めに、3 グループに分かれてのグループセッションを行い、自己紹介から普段抱えてみえる作り手としての思いや悩み、今後の夢のようなものまで語りあいました。さいごには、オブザーバーによる講評が行われ、「流通拠点やネットワークの構築が必要」「年間通じて作物が集まるファーマーズマーケットがあるとよい」「域内消費、本物志向、地元産にこだわる姿勢がここにはある」という意見が出ました。最後に、コアメンバの一人である日本料理おか田の岡田さんから「すぐにでも連絡が取れ合える SNS によるネットワークへの参加」が呼びかけられました。



時間が足りないほどの白熱した議論が展開されました

フリータイム

交流会の後半では、主に生産者が持ち寄った農産物や製品を料理人にPRする時間が設けられました。料理人側がどんなものを欲しがっているのか、反対に料理人にとって生産者がどんな思いで作っているのか、互いに質問は尽きず、時間が足りないほどのPR合戦となっていました。



さて、大事なのがこれからです。交流会の中でも提案のあった、会員同士のSNSネットワーク構築も有効な手段だと思います。

生産者が発する旬な情報を欲しがると料理人も多いでしょう。またその反対もあるかもしれません。多様な参加者による多様な産品が行き交い、域内消費が加速されるかもしれません。しかし同時に、品質や規格、量と言った課題も出ることと思われます。または、これから本当に必要なのは、恵那・中津川地域の産品が一堂に集まり、販売あり、加工あり、飲食あり、卸もありといった一大拠点や流通システムづくりなのかもしれません。そういった課題を、第2回の交流会では持ち寄り、さらに議論を深め合えればと思います。次回の交流会は、11月8日(水)を予定しています。当日アンケートでは、93%の方が、次回も参加したいとお答えいただきました。できることはすぐに始め、課題は丁寧にクリアしながら、ぜひ皆さんの熱意をかたちにしていきたいと思います。

今後の展開について

■担当；恵那市農政課 横光 TEL0573-26-2111 (内 369) Fax0573-25-8933
e-mail tetsu_yokomitsu@city.ena.lg.jp